

全木連時報



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

6月25日(土曜日)

(第567号)(毎月25日発行)

平成17年(2005年)

発行所

社団 全国木材組合連合会

編集兼後藤 隆一

東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)8215
URL <http://www.zenmoku.jp>

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

一 趣旨
地球温暖化防止・循環型社会を実現するためには、木材需要の大宗を占める住宅部門における間伐材等地域材の利用を推進することが重要となっている。

二 事業内容
(一)販売促進支援事業
間伐材等地域材を活用した住宅に興味を持つ消費者に対し、首都圏を中心に木材産業と住宅産業、NPO等が連携して実施する消費者セミナーや企業が消費者に直接PRするフェアの開催等を行う。

三 (二)情報提供事業
首都圏を対象に、より身近な場所で体験しながら理解を深めるよう、材木商等の持つ「地域の工務店・製材業とのつながり」、「地域材の知識」等を活用して、消費者が

全木連は、林野庁の助成を得て、今年度から、間伐材等、国産材の利用促進のため、木造住宅の販促支援、木のPRのための展示会の開催支援及び木との触れあいの場の提供などをを行う「森林を育む木の住まい普及推進事業」をスタートさせる。国費総額五千萬円のうち、三千二百万円は「一分の一の補助率」となっている。本事業の概要は、次のとおりであり、都道府県木連はじめ、木材関係団体・個別企業の協力を願う次第である。

森林を育む木の住まい普及推進事業がスタート 街角木ポイントを整備 既存展示会でフェア開催

庄司全木連会長、並木全木協連会長 各県木連の総会に飛び回る

昨年五月に会長に就任してから満一年が経過した庄司橙太郎全木連会長と並木瑛夫全木協連会長はともに積極的に全国の意見を聴くことに努めている。特に五月の総会をこなしている。特に五月の総会シーズン中は、各都道府県木連や関係団体の総会に駆け回った。庄司会長は、全木連総会の終了した翌週の五月十六日には、全市連総会に出席のため名古屋へ出張。これを皮切りに二十二日に情報セミナー理事会、二十六日・住木セミナー理事会、二十七日に大津市での滋賀県木協総会に出席した。六月四・五日は、庄司会長とともに、茨城県で開催の全国植樹祭に参加した。

各県木連の総会は、開催日時が集中するため、両会長ともすべての総会に出席することはできないが、最大限の日程調整をして、出席につとめた。

一面 森林を育む木の住まい普及推進事業がスタート 庄司・並木両会長行動メモ
二面 自民党の会合で庄司会長が要請 JAS展示会日程
三面 御神木祭行われる 平成十六年の製材工場数は九千四百二十
四面 景況調査 県木連役員異動



御神木祭が待たれる選定された直後の御神木。左右となり合せて二本立つ。周囲はこの後整地されて御社始祭が行われる。

(写真提供、並木全木協連会長。4月23日、木曽官材市売協で開催の全木協連の優良国産材製材品展示会のおり、会長自ら撮影したもの)。

御神木は、遷宮に使用される木材のうちでも、御神体を収める器に使われるため、特別な木材として扱われる。

式年遷宮は、千年以上にわたり連綿と伝えられた日本の精神風土に根ざすもの。次回の遷宮は六十年毎に行われる儀式で前回は昭和六十年に行われた。遷宮に関わる行事の中では一番最初の行事にあたる。

御神木祭は、遷宮にあわせて二十年毎に行われる儀式で前回は昭和六十年に行われた。遷宮に関わる行事の中では一番最初の行事にあたる。

連綿と続くとはいうものの、二十年に一度で、地元関係者の後継難もある現在、伐採技術の伝承な

要であり、それぞれが上質な材であることには勿論のこと、二本の先端が交叉して伐倒されなければならないなど、現在の資源事情からすると越えるべきハードルは高いものがある。

伐採の方法も、古式のとおり、幹の三方から斧を入れる「三ツ紐切り」または「三ツ尾切り」といわれる難度の高いもの。高度の技術が求められる。

御仙始祭と御神木祭はこれらをすべてクリアしたうえで行われたもの。関係者の努力に敬意を表する。

なお、木曽谷とともに岐阜県加子母の裏木曽国有林でも五日、御用材の伐採式が同様に行われた。

年次	出力階層別工場数						工場 出力 比率
	計	7.5~ 22.5kW未満	37.5~ 75.0kW	75.0~ 150.0kW	150.0~ 300.0kW	300.0~ 400.0kW	
平.16	9,420	906	2,144	3,429	1,630	814	4
15	9,020	902	2,265	2,617	1,706	844	4

年 次	従業者規模別工場数						50人以上
	計	4人以下	5~9人	10~19人	20~39人	30~49人	
平.16	9 407	5 593	2 393	1 051	237	97	
15	9 875	5 871	2 553	1 063	252	99	

は、減点対象としないこととし、それ以外の工場にあっては、格付実績さえあれば減点なしとし、実績ゼロの場合は二十点減点とする。JAS製材品の木材市場への出荷実績については、開催年度に認定を受けた工場及び初出展工場にあっては、減点対象としないこと

とし、それ以外のJAS認定工場にあっては、昨年の市場出荷実績が一回以上あれば減点しない。ただし、実績がない場合は十点減点する。

出品量については、構造用製材及び下地材は従来どおり 5m^3 とする。

三 五 七 | 門/儀/合/場

伊勢神宮御社始祭・御神木祭執り行われる

長野県木曽の木材関係者が努力
社宮御柏祭・御神木祭執り行

は、減点対象としないこととし、それ以外の工場にあつては、格付け実績さえあれば減点なしとし、実績ゼロの場合は二十点減点とする。

JAS 製材品の木材市場への出荷実績については、開催年度に認定を受けた工場及び初出展工場にあつては、減点対象としないこと

とし、それ以外のJAS認定工場にあつては、昨年の市場出荷実績が一回以上あれば減点しない。ただし、実績がない場合は十点減点する。

出品量については、構造用製材及び下地材は従来どおり五、^三とする。

製材工場数は九千四百一十工場

平成16年製材基礎統計

農林水産省が四月二十一日に公表した「平成十六年製材基礎統計」によると、我が国の平成十六年末の製材工場数は、九千四百二十一工場となり、前年より五百工場減少した。

出力階層別では、三百キロワット未満の各階層で前年より工場数が減少している。このため、総出

力数は、前年比三・三%減の八十
七万八千五百六十二キロワットに
なつた。

従業者規模別では、四人以下の
工場から五十人以上の工場までの
各規模で前年より工場数が減少し
ている。これにより、全従業者数
は前年比五・九%減の五万五千百
十八人となつた。

【統計表】		工場数：工場	出力数：kW	比率：%			
1 製材工場数		(1) 製材用動力の出力階層別工場数及び総出力数(12月31日現在)					
年次	計	出力階層別工場数					総出力数
		7.5～ 22.5kW未満	22.5～ 37.5	37.5～ 75.0	75.0～ 150.0	150.0～ 300.0	
平.16	9,420	906	2,144	3,429	1,630	814	497
15	9,220	902	2,265	2,617	1,706	814	496

							工場数：工場
							従業者数：人
							比率：%
(2)従業者規模別工場数及び従業者数(12月操業工場のみ)							
年次	従業者規模別工場数						従業者数
	計	4人以下	5~10人	10~20人	20~30人	30人以上	
平.16	9 407	5 593	2 393	1 051	237	97	36 55 118
15	9 875	5 871	2 553	1 063	252	99	37 58 593

景況調查 = 全木協

5月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕

当月の状況

販 売 量	増加24% (18)	変わらず51% (38)	減少25% (19)
仕 入 量	増加24% (18)	変わらず44% (38)	減少32% (24)
販 売 価 格	上昇 3% (2)	変わらず89% (67)	下降 8% (6)
仕 入 価 格	上昇 8% (6)	変わらず85% (64)	下降 7% (5)

来月の見通し

販売量	増加29% (22)	変わらず60% (45)	減少11% (8)
仕入量	増加24% (18)	変わらず67% (50)	減少 9% (7)
販売価格	上昇 3% (2)	変わらず89% (67)	下降 8% (6)
仕入価格	上昇 5% (4)	変わらず87% (65)	下降 8% (6)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	3% (2)	87% (55)	10% (6)
南洋材	11% (7)	82% (50)	7% (4)
北洋材	3% (2)	89% (53)	8% (5)
国産材	4% (3)	76% (50)	20% (13)
建材	9% (5)	84% (49)	7% (4)

乾燥材取引の 頻度	増 加	変ら ず	減 少
	38% (27)	62% (44)	0% (0)

〔製造部門〕

当月の状況

販売量	増加25% (19)	変わらず50% (37)	減少25% (19)
仕入量	増加21% (16)	変わらず43% (32)	減少36% (27)
販売価格	上昇 0% (0)	変わらず88% (66)	下降12% (9)
仕入価格	上昇 8% (6)	変わらず69% (52)	下降23% (17)

来月の見通し

販売量	増加33% (25)	変わらず55% (41)	減少12% (9)
仕入量	増加24% (18)	変わらず59% (44)	減少17% (13)
販売価格	上昇 0% (0)	変わらず89% (67)	下降11% (8)
仕入価格	上昇 9% (7)	変わらず83% (62)	下降 8% (6)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	14% (5)	83% (30)	3% (1)
南洋材	4% (1)	96% (22)	0% (0)
北洋材	13% (4)	78% (25)	9% (3)
国産材	6% (3)	70% (37)	24% (13)

プレカットの動向	1ヶ月以内	1ヶ月	1ヶ月以上
受注後、加工までの待合時間	50% (13)	41% (10)	9% (2)

国産材は伸びていると見られるが、全体では前年より減少した。ただし、工場数が減少したため、一工場当たりの素材消費量は、前年比四・四%増加し、二千二百六十五 m^3 となつた。

製材品の出荷量も全体では前年より減少し、用途別では木箱仕組板・こん包用材が前年より増加した以外には、建築用、土木用、家具建具用とも、それぞれ前年より減少した。ただ、建築用材の中で人工乾燥材の出荷量は前年比八・八%増加し、二百十萬九千 m^3 になつた。これは全出荷量の一五・五%にあたり、建築用材に限れば一九・一%にあたる。

各県木連役員異動	
各県木連の今期総会では、役員の改選期であつたところもあり、代表者等が交替した団体があるのを紹介する。	（岡田幸助）、高知＝北岡浩（門田）、福岡＝角和憲（坂本喬）、長崎＝増山忠男（江藤豊）
会長・理事長交替	山形＝阿部政昭（富樫憲一）、埼玉＝坂東正一郎（木村卓司）、東京材商＝多田邦彦（早川淳）、新東京＝阿部信義（河野義定）、東京原木＝市川英治（江間洋介）、富山＝小池善英（石灰甚一）、静岡＝杉山陽一（新聞溥二）、山口＝木協連（今井昭夫）
事務局役員交替	茨城＝関義昭（三次安寿）、栃木＝赤羽根暨（村井義男）、静岡＝鈴木俊博（島公望）、京都＝林昌也（田中功）、徳島＝川下昌員（藤井明）、長崎＝大宅靖昭（佐藤信之）、熊本＝木協連（柳井純雄（児玉栄一）、宮崎豊）、福岡＝吉田勝男（谷巖）
注（ ）内は前任者、敬称略	（ ）内は前任者、敬称略

おしらせ

各県木連役員異動

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート！

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みに
スピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金（林業部門）

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

URL <http://www.affcf.com/forestry>